

特集Ⅱ 追悼：鑪 幹八郎先生

となりの鑪

三 林 真 弓

京都文教大学臨床心理学部教授



「ト・ト・ロ・・・あなた、トトロって言うの？」

映画『となりのトトロ』で初めてメイちゃん
がトトロに出会うシーンの有名な台詞である。
京都文教大学に筆者が着任して間もない頃
(2002年5月)、大学のイベントで学生や教職
員と知恩院ならびに清水寺をお参りするツアー
があり、息子を連れて参加した。息子が鑪先生
に出会ったのはこのときが初めてで、「鑪先生
だよ。」と紹介したときに、息子はメイちゃん
ばりに冒頭の台詞を鑪先生に向けて放ったので
ある。先生は、わっはっはと笑いながら息子の
失言を受け止めてくださり、そこでこのような
3人の写真を撮らせていただくことが出来た。
後日、この写真を先生に差し上げたときには「素
敵な写真をありがとう」と書かれた紙がメール

ボックスに入っていて、筆者は直筆の「ありが
とう」が嬉しくて、しばらく研究室に飾ってい
たほどである。

学生達からは、自慢話のように先生のご自宅
に呼ばれて一緒に鍋をした話を聞き、私もいつ
か先生の可愛いピンクのエプロン姿を拝見した
か先生が可愛いピンクのエプロン姿を拝見した
かと思っていたが、それはとうとう叶わなかつ
た。学長になられてからはさらにご多忙となり、
少しずつ距離が離れていった感じがあるが、
元々は愛嬌たっぷりのチャーミングな先生なの
である。

臨床心理学研究科では、禹先生の取り計らい
で毎年韓国へ海外交流に行かせていただいで
いた。鑪先生がご定年を迎える年に行った旅行で
は、皆で夕食を囲んでいるときにいかにも高級

そんなバツタ物の腕時計をサプライズプレゼントした。洒落が通じるぎりぎりのラインを川畑先生たちはさすがよく分かっておられてセレクトされていて、一番下っ端だった筆者から見ても、鑑先生以外、皆学生気分に戻ってお祝いしていた姿を今でも昨日のように思い出す。楽しかった。食事の席での会話では、先生のほうから「もしさかのぼって人生を生きられるとしたらいくつに戻ってやり直したい？」という話題を振られた。筆者は確か「いろいろ悔いはあるけれどさかのほりたくない。」という答えをしたように思う。失いたくないものもあったからである。うろ覚えだが、鑑先生ご自身の回答は、驚くほど若い頃までさかのほりたいということであった。そして、そのときには心理の路は目指さず、別の勉強をするともおっしゃっておられた。日本の臨床心理学界を拓き、数々の研究業績を積まれた先生が潔くチャラにしてもう一度人生をと云われたときに、当時30代で既にちっぽけなものにしがみついている自分自身を大いに恥じた。鑑先生には心理の道に進まれた後悔があるのではなく、脇目もふらずにひとつの路を信じて邁進し続けて来た人だけが味わう苦しみや達成感がおありで、だからこそ別の人生をふっと思いついて安らぎを得るようなことがあるのだろうと想像した。

鑑先生が大学を離れられるときに、先生の研究室にあった鉢植えのパキラを「大切に育てます」と言って譲り受け、1年もしないうちに枯らした。何とも申し訳ない。トトロのように笑って許してくれるだろうか。写真のなかの小さな息子と繋いだ先生の手を眺めていると、その手のぬくもりが伝わってくるようであたたかい気持ちになる。どうぞ安らかに。これからもずっと私たちを見守り続けてください。